

第14回 途上国の環境問題を見て考える全国学生ツアー

主催：土木学会環境工学委員会・海外環境教育に関する小委員会

目的と実施概要：本ツアーは学部学生・院生・教員等を主対象として海外(途上国)の環境問題の現場を視察し、現地の大学の研究者や学生および国際協力に係る政府機関との学術研究交流や意見交換および国際交流を行うことを目的としています。14回目を迎える今回は観光などの開発により大きく変貌したバリ島を見学します。伝統的な生活スタイルの村と開発が進んだ地域を見学することで、バリ島の知られざる側面に光を当てて環境問題を考えます。また、沿岸域の環境(マングローブ、珊瑚礁)にも注目し、実際に保全活動にも参加していただきます。現地ツアー資料や講義、学生交流会は英語で行われます。

日時：2013年3月5日～10日(6日間)

開催地：バリ島(インドネシア)

定員：25名(原則申し込み先着順)

対象：全国の高専生、大学生、大学院生、教職員、研究所員他

参加費：6万円※

※旅行傷害保険、航空券、アライバルビザ、空港使用料、シュノーケリング器具レンタル費用(100,000IDR)は含んでいません。

参加条件

- 1) パスポートの有効期限が半年以上残っていること。
- 2) 海外旅行に参加するにあたって心身ともに健康な状態にあること。
- 3) 海外旅行障害保険への加入(出国から帰国まで)をすること。
- 4) 事前の学習と自己紹介の英語版パワーポイントの作成を行うこと。
- 5) 英語の事後報告書の作成を行うこと(3月末までに提出)。

ツアー申し込み要領

申込締め切り：2013年1月14日(月)

申込方法：氏名、所属、連絡先(Tel/Fax、E-mailアドレス等)をご記入の上、下記宛てメールもしくはFaxでお申し込みください。

申し込み先：k.yama@yamaguchi-u.ac.jp

TEL/FAX 0836-85-9320(山本浩一)

ご注意：本ツアーは現地集合、現地解散のツアーです。現地への航空機は各自で手配をお願いいたします

日程表

日程	内容
3月5日(火)	13:30 デンパサール空港(バリ)集合 ウダヤナ大学交流会(講義):バリの環境問題(アーサナ教授)、両国学生の交流、懇親会、デンパサール泊
3月6日(水)	デンパサール市内の沿岸環境保全施設および都市環境問題見学(JICA マングローブセンター、埋め立て処分場、パドウン川の汚染)、デンパサール泊
3月7日(木)	郊外の自然環境見学(ウンダ川、キンタマーニ高原、パトゥール湖、パトゥール山)、デンパサール泊
3月8日(金)	海岸の環境問題見学およびボランティア活動(ビーチでシュノーケリング/サンゴの移植活動、アメッド海岸)、デンパサール泊
3月9日(土)	エコビレッジステイ(石鹸作り体験、ジンジャーパウダー作り体験、竹炭作り体験、昼食(バリニーズスタイル)、村のトレッキング(カパール村)、ケチャ・ダンス見学、デンパサール泊
3月10日(日)	現地解散



第13回 途上国の環境問題を見て考える全国学生ツアー実施報告

2012年3月3日～9日にかけて、調査地であるインドネシア中部カリマンタン州パラカラヤ市近郊において、環境問題に関心のある学生・社会人を対象とした、上記ツアーを実施した。19名の参加者は、高等専門学校(高専)の学生、大学の学部生、修士課程・博士課程学生、一般社会人と多岐にわたっており、その専門も、文系・理系という枠組みにとらわれず、経済学・観光学・生態学・建設工学など様々であった。

ツアーでは、インドネシア政府による農地開拓計画「メガライズプロジェクト」によって開発された泥炭地における泥炭火災の実態、生物多様性の揺籃ともいえる熱帯泥炭湿地林とオランウータン保護地の見学、砂金採掘にもなる水銀汚染の現場を視察した。また、パラカラヤ大学において、熱帯泥炭湿地林の開発と地球温暖化・生物多様性との関連に関する一連の講義を受け、質疑応答を通じてこれらの環境問題に対する理解を深めた。ツアーでの体験を通して、インドネシアで現在起こっている環境問題について実地で学ぶことができ、環境問題に興味を持っている仲間たちと議論を深めることで、参加者にとっては非常に貴重で有意義な体験になった。

協力：地球規模課題国際科学技術協力プログラム(SATREPS:サトレップス)「インドネシアの泥炭・森林における火災と炭素管理」プロジェクト、明治学院大学、松蔭大学及びパラカラヤ大学、北海道大学「環境リーダー・マイスタープログラム(StraSS)」等